

所信表明演説

(令和4年3月定例会)

この冬は度重なる積雪に見舞われ、町民の皆様から「雪かきに疲れ果てた」との声を多く聞いたものです。ようやくここ数日、温かい晴天が続き、雪解けが進み、春の足音が一気に高鳴ってまいりました。

本日、令和4年第1回若桜町議会定例会を招集させていただきましたところ、議員の皆様にはこぞってお集まりいただき、諸議案のご審議を賜りますこと、感謝申し上げます。

議員の皆様には、去る2月13日執行の若桜町議会議員一般選挙におきまして、ご当選を果たされましたこと、改めてお祝いを申し上げます。私も同日の町長選挙におきまして、町民の皆様からのご支援をいただき、当選を果たすことができました。2月20日に町長に就任して半月が経ちましたが、町民の皆様の期待の大きさと職責の重さを改めて実感しているところでございます。今後、しっかりと町民の皆さんの声に傾け、議員の皆様と連携してまちづくりに取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご指導、ご協力をよろしく申し上げます。

就任早々の2月24日、春米で最大積雪深4メートル22センチを記録するなど、県境近くの奥の集落で災害級の積雪に見舞われました。普段雪には慣れておられる住民の皆様が危険を感じられるほどの積雪量でしたが、県とも連携して、町の建設業協会及び県の建設業協会のご支援をいただき、春米、諸鹿の両集落において迅速に屋根の雪下ろしなどの除雪対応ができ、住民の平穏な生活を取り戻すことができましたこと、この場をお借りして、関係者の皆様に改めてお礼を申し上げます。今後とも、住民の安心・安全ということを第一に、スピード感を持って対応していきたいと思っております。

さて、若桜町は、今、深刻な過疎化・少子高齢化の問題に直面しております。令和2年10月の国勢調査で人口は3,000人を割り込んで、2,864人となり、高齢化率は48.6%と、2人に1人が65歳以上の高齢者となりました。

た。私もこのたびの選挙で集落を回って、空き家の多さ、また独居や夫婦のみの高齢者世帯の多さを強く実感したところです。過疎化、高齢化が一層進展しているというのが現状です。

一方で、生まれてくる子どもの数は去年は2人、その前年は6人でした。コロナの影響を差し引いても、少子化に一段と拍車が掛かっている状況です。10年後、20年後の町の姿を想像すると自ずと強い危機感を抱かざるを得ませんが、こうした危機感を職員はもとより、議員の皆さんともしっかり共有することが大切だと思います。

そのうえで、私は、現状を悲観し、諦めるのではなく、たとえ人口が減っても、町民の皆さんの絆をより深めて自立を目指し、また、町外からも多くの方々に、おいでいただき、住んでいただき、あるいは応援をいただきながら、町民がいつまでも楽しく幸せに暮らしていける、そんなまちづくりを進めていきたいと思っています。

今回の町長選に立候補するにあたり、私はそうした思いから「いつまでも笑顔で暮らせる若桜町へ」をキャッチフレーズに「若桜町がんばるプラン」として、8つの政策目標を掲げて町民の皆さんに訴えました。ここでは、1つ、「地域の経済を潤す」、2つ、「町民の暮らしを守る」と、2つの政策の柱に分けて述べさせていただきます。

なお、施策の推進に当たっては、国連の持続可能な開発目標SDGsの17の目標を骨格に据えて、環境、社会、経済の3つのありようをバランスよく施策に反映して、持続可能な若桜町の礎を築いていきたいと思っています。

1つ目、地域の経済を潤すことです。

まず、本町の基幹産業である農林業ですが、特に町内の林業はここ10年で素材生産量が5倍近くも増え、成長産業といっても過言ではありません。20～30歳代の若い従事者も増えています。この成長産業の流れを力強く後押しし、所得の向上と雇用の創出につなげていきたいと思っています。そのために、林道や作業道などの路網整備、高性能林業機械整備による施業の集

約化・効率化、人材の育成確保などにより木材の搬出環境を整備するとともに、再造林の支援による持続可能な森林経営の促進、さらには町内製材工場による木材製品の高付加価値化や販路拡大による流通体制の構築などの支援に取り組んでいくことで、町土の95%を占める山林を有効活用していきたいと思います。

農業については、集落営農や農業法人など担い手を確保し、耕作放棄地の増加を食い止め、農産物の生産力向上と販路の拡大により、特産品化を進めたいと思います。あわせて、鳥獣被害対策にもしっかりと取り組み、ジビエ肉の活用も引き続き促進していきます。

また、観光面では、コロナ禍で密を避け、自然豊かな環境を求める人々の価値観の変化をとらえ、氷ノ山エリア、若桜宿城下町の町並みや若桜鉄道などを活かした観光交流を進めます。氷ノ山については、昨今の暖冬化傾向を踏まえ、冬のスキーだけに頼らず、夏場の合宿やキャンプなどのアウトドア活動を盛んにし、オールシーズンで誘客できる観光スタイルへの転換を促進します。若桜宿については、昨年夏に重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、また、魅力的なお店も増えてきて、町外からお越しになる人も増えています。若桜鉄道を活用し、また山城ブームの若桜鬼が城址と合わせて入込客を増やし、地域にお金をしっかり落としいただき、経済波及効果を高めていきたいと思います。

あわせて、コロナ後のインバウンド需要を見据え、本町ならではの自然体験、農林業体験、ものづくり、民泊などを取り入れた外国人観光客向けのプログラムを醸成したいと思います。

こうした産業振興策とあわせて消費の面にも着目して、地域のものは地域で消費する「地産地消」はもとより、地域にないものがあれば、何とか地域で生産できないかと知恵を絞る「地消地産」という発想も持ちながら、地域からのお金の流出をなるべく減らして地域内の経済循環を強固なものとし、雇用創出や所得確保につなげたいと思います。

例えば、学校給食の食材や道の駅の農産物の地元調達率の向上を目指し、これを町内の各種食事提供施設や配食サービスに拡げていきたい。また、

地元にはないお店、例えば、蕎麦屋、パン屋、ジビエ料理屋など、移住施策とも絡めながら起業を促進するような取組も検討してみたいと思います。

とりわけ、電気やガソリン、灯油などのエネルギーについては、年間約5億円が町外に流出しているとの試算があります。地元の木質バイオマスや水力を活用してエネルギーの地産地消を推し進め、町外に流出するお金を少しでも減らしながら、地域の経済を潤していきたいと思います。

具体的には、公共施設への木質バイオマスボイラーの設置促進、小水力発電等集落ぐるみの再生可能エネルギー導入の取組への支援、さらに住宅への太陽光や薪ストーブなどの設置促進などに取り組んでいきたいと思えます。

2つ目の柱は、町民の暮らしを守ることです。

コロナ禍での様々な行事の中止と相俟って、地域の活力低下や集落の担い手不足という声が聞かれるところです。集落や自治会は、むらづくりや高齢者の見守りの基盤であり、町の元気の源でもありますので、その活動をしっかりと促進し、地域コミュニティの絆の再生に取り組めます。具体的には、地域行事への参加や小地域サロンのような人の集いを促進する取組、高齢者の孤食を防ぐための高齢者食堂や里山ビジネスなど集落ぐるみの取組を促進することも検討したいと思えます。

また、特に池田地域では、担い手不足から集落機能の維持が困難となりつつあることから、新たな集落支援の枠組みを検討し、集落機能の強化に取り組めます。

また、町内の買い物や公共交通等の生活機能や医療介護の提供サービスは、特にお年寄りには切実な問題です。お年寄りが安心して生活できるよう、きめ細かく支援していきたいと思えます。買い物に関しては、町内の買い物環境をまずはしっかり維持していくことを基本に、移動販売や宅配などより広い選択肢を提供できるよう取り組んでいきたいと思えます。また公共交通については、利用者の目線に立って、より利便性が高く、かつ持続可能な交通体系を構築していきたいと思えます。医療や介護に関して

は、老後を安心して町内で暮らせるよう、地域医療を維持しつつ、地域包括ケアシステムの構築に向けて医療・介護の連携を一層促進していきたいと考えています。

また、若者、女性なども含め、すべての町民が暮らしやすい環境づくりを図るため、デジタル技術を活用した住民の利便性の向上、危険空き家の除去や空き家の利活用の対策強化、豪雪による孤立集落の防止ときめ細やかな生活道路の除雪対策、豪雨等の災害時の住民避難の安全性の確保など防災対策にも力を入れたいと考えています。

若桜町は保育料の無料化をはじめ、県内に先駆けて手厚い子育て支援を行ってまいりました。子育て世代の意見を聞きながらもう一段の支援策を検討し、また教育環境の充実にも努めてまいります。そして、将来、地元に戻って活躍する子どもたちが増えていくよう、ふるさと教育を進めるとともにUターン促進施策も講じつつ、持続可能なまちづくりを進めます。

以上、私の施策の一端について考え方や具体的な取組の例を申し上げましたが、これを実現するため、住民、民間団体や町内企業との連携を図りながら、オール若桜で取り組んでいきたいと考えています。あわせて、町職員がその持てる力を十分に発揮し、町民福祉の向上に一丸となって取り組んでいけるよう、職場環境や体制を整えていきたいと思います。

今後、役場の中や総合計画審議会での議論を重ねた上で、現在策定中の第10次若桜町総合計画に盛り込んで施策化をしていきたいと思います。施策に実現に向けて、議員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。所信表明とさせていただきます。ありがとうございました。